

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

(羽曳野市立埴生南小学校)

【調査の目的】

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の対象学年】 小学6年生

【調査の内容】

①教科に関する調査（国語、算数、理科）

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に着けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ① 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【調査実施日】 令和7年4月17日（木）

【留意事項】

※全国学力学習状況調査の結果は、学力の中の特定の一部であり、また子どもたちのすべての学習状況を表すものではありません。

国語について

国語「特に正答率の高かった問題について(問われている力、問題の傾向など)」

問① 二【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる

【話し合いの様子】をチャート図のような図で表したもののについて、説明する問題である。質問する内容を四角で囲み、線でつなぐことでインタビューの流れを整理していると捉えることができる。

問② 三【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

【調べたこと】の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉の両方から言葉や文を取り上げて、60字以上、100字以内で書いている。

国語「特に正答率の低かった問題について(問われている力、問題の傾向など)」

問① 三(1)【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なもの

自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる

本設問では、実際にインタビューをする場面において、小森さんが、「働くことについて考える」ために、事前にグループで話し合ったインタビューの進め方を意識しながら、バスの運転士の岡さんに「バスの運転士として大切にしていること」を質問している。正答は、自分が知りたいことをより具体的に知るため」だが、「自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため」を選択している児童が、府と比べ、かなり多かった。本設問とよく似た問題がR5年にも出題されている(3-1)が、そのときも本校児童の正答率は府と比べ、低く、課題として挙げられている。

小森さんの発言に「例えば…」とあるので、そこに注目すれば、正答を選択できる問題である。

問③ 二(1)【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く

時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる

本設問では、「あたらしい」という言葉の形が時代とともにどのように変化したのかについて、時間的な順序を考えながら読むことが求められる。【資料2】自体はそれほど長い文章でもなく、平安時代のもので書き抜くというそれほど複雑な問題ではない。

国語「無解答率の高かった問題について(問われている力、問題の傾向など)」

3三(2)【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、

【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

「無解答が多い」理由として考えられる要因

- ①そもそも【資料1】の文章が難しく、内容理解ができなかったと考えられる上、【資料1】は問題文から6ページも前にもどらなければいけない。
- ②内容理解ができていない文章で「納得した」ことを書くときに、3ページにわたってちりばめられている【資料2・3・4】の内容をいれなければいけない。
- ③最終問題で、間に合わなかった。

※目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける ことに引き続き課題があると考えられる。

まとめ「本校の課題と今後の対策(指導していくこと、意識していくことなど)」

①話し合い活動の場面で

インタビューをしたり、話し合ったりする場面では、自分の質問に対する相手の答えを受け止め、その答えに応じて、さらに質問を重ねることにより聞きたいことの中心が明確になっていく。しかし、自分の授業を振り返ると、相手への質問内容を考える場面は多いが、相手の考えを深く掘り下げるような質問を重ねる指導はしてこなかった。子どもたちの話し合いの様子を思い返しても、返答への答えは内容を相手に確かめることが多いように思う。そのため、相手の返答に対し質問を重ねる聞き方「例えば…」、「もう少し詳しく…」を指導し、より聞きたいことの中心を明確にしていく学習活動を意識する必要があると感じる。

②文章の読み取りの場面で

内容の大体を捉えるためには、どのような順序によって説明されているかを考えながら文章の構造を大づかみに捉え、それを手掛かりに内容を正確に理解することが大切である。学習指導に当たっては、時間的な順序を表す言葉(「昔」、「今」、「次」など)、時を表す言葉(「奈良時代」、「平安時代」など)に着目し、その言葉に印を付けながら読んだり、大事な言葉を抜き出し、矢印でつないだりするように指導することが考えられる。

③複数資料の読み取る場面で

複数の資料を結び付けて読む学習活動では、文章の要旨を捉えた上で、図表などが文章のどの部分と結び付き、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読む必要がある。そのため、それぞれの資料にある、語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行うことが効果的であるとされている。

算数について

算数「特に正答率の高かった問題について(問われている力、問題の傾向など)」

問3(4) $1/2 + 1/3$ を計算する。

→異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる。

問4(1) 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるか調べるために、必要な事柄を選ぶ。

→伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる。

基礎的な計算の力は身につけている。

答えを求めるために必要な数量が理解できている。

算数「特に正答率の低かった問題について(問われている力、問題の傾向など)」

問1(2) 都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く。

→目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

・出荷量が増えたことをグラフから読み取れていない。(23.8%)

・出荷量が増えたことは読み取れたが、「どちらのグラフに着目したのか」や「2023の出荷量が2013年よりも多い」という説明ができていない。(22.6%)

4(4) 10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。

→「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。

10%の増量なので「1.1倍」を選択しなければならないところを、「0.1倍」と解答した児童が全体の39.3%と最も多い。もとにする量を1とみる割合の考え方や、百分率の表し方の理解が難しいと考えられる。

算数「無解答率の高かった問題について(問われている力、問題の傾向など)」

問3(2) $3/4+2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数のいくつ分になるかを記述できるかどうかをみる問題。

- ・最も正答率が低く、無回答率が高かった問題である。
- ・通分については記述しているが、共通する単位分数が $1/12$ であることや、 $3/4$ と $2/3$ が単位分数のいくつ分なのかを答えることができていない。(25.0%)
- ・共通する単位分数が $1/12$ であることのみ答えることができた児童もいる。(10.7%)

まとめ「本校の課題と今後の対策(指導していくこと、意識していくことなど)」

・学習指導要領の領域でみると、「測定」での正答率が低かった。今回は「ハンドソープを何プッシュできるか」の求め方を考えたり、はかりの目盛りを読み取る問題である。算数の問題を生活場面と結び付けて考えたり、実際に測定する経験をたくさん積んだりする必要があると考えられる。

・「変化と関係」の領域では、分析②でも取り上げている「何倍になっているか」を求める問題で正答率が低かった。「倍」については、3年生から6年生にかけて単元がある。各学年でテープ図や数直線をもとに数量の関係をとらえ立式する学習を大切にし、継続して取り組む必要があると考える。

・問題形式でみると、記述式の問題で正答率が低い。(28.0%)

自分の考えを友達に説明したり、ノートにまとめたりする活動を日常的に行うことで、力をのばしていきたい。

理科について

理科「特に正答率の高かった問題について(問われている力、問題の傾向など)」

・正解率が高かったのは2問。

問1(2) あかりさんが下線部のようにまとめたわけを、上の結果を使って書きましょう

⇒赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題(記述式)

問3(2) 顕微鏡を操作したとき、キとクのように操作する前と後で見え方が変化しました。キとクはどのような操作をしたのか、下の1～4の中からそれぞれ一つ選んでその番号を書きましょう。

⇒選択式で、ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題

理科「特に正答率の低かった問題について(問われている力、問題の傾向など)」

問2(1) アルミニウム・鉄・銅の性質について、下の1～4までのの中からそれぞれ1つ選んでその番号をかきましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

⇒アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ問題

・上記以外にも問題別では【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ問題やヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題、水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く問題など正解率が大阪府より10%以上低い問題が6問あった。その6問はそれぞれの分野にわたっている。理科的思考の醸成が課題だと感じた。

・1番正解率が低かった問題「アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ」問題で身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていないようだ。

理科「無解答率の高かった問題について(問われている力、問題の傾向など)」

問3(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

⇒レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題。

正解率、無回答率ともに高かった問題でした。発芽の条件について、実験で除いている条件(ここでは日光と肥料)を、新たに加えるということに気がつかないことが課題で、疑問に対して確かめる方法を考えるところから授業展開する必要がある。

まとめ「本校の課題と今後の対策(指導していくこと、意識していくことなど)」

・領域、評価の観点、問題形式のどの分野も正解率低い問題があった。

教科書に書かれている実験方法だけではなく、それを元にした理科的な思考を問われる問題が多かった。

理科の学習を通じて、疑問に対して課題解決の方法が自らの思考で見いだされるか、理科的な思考、実験の選択等ができるかというところが大事になり、教科書に書かれている実験などの課題解決方法に到達するまでのプロセスや思考が大切になってくる。

同時にそれらの**考えをお互いに表現しあえることも大事になってくる**。実験の結果についてもどのような状態になったら結果がでるのか?どのような条件をそろえる必要があるのか?なども意見を出し合う活動も必要になる。**教科書の実験方法をなぞるだけではなく、思考する理科学習に更に転換する必要がある。**

また、**実験後の日常生活への結びつけや、体験が大事**になってくる。理科の授業だけで終わらず、**他教科との連携や、理科的な体験学習を増やしていくことが今後の子どもたちの理科的思考の醸成に必要なことだと感じる**ので取り組みを進めていきたい。

児童質問紙から

「学習面において顕著に成果が見られる項目について（予想される成果の要因）」

(38) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

(本校 R7 92.8←R6 84.8)

➡本校には学習課題のある子どもが多いという共通認識のもと、学習へのフォローが意識されていると予想される。

(39) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

(本校 R7 92.8←R6 87.3)

➡前年度のポイントからも増加している。研究テーマを意識した授業作りがこの結果につながっていると予想される。

(47・55・63) 国語・算数・理科…授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(いずれも府平均を上回る結果になっている。)

➡授業を展開する上での工夫が要因の一つであると予想される。

「生活面において顕著に成果が見られる項目について（予想される成果の要因）」

(1) 朝食を毎日食べていますか(本校 R7 92.7←R6 86.1)

(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(本校 R7 80.7←R6 62)

(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(本校 R7 92.8←R6 82.3)

➡前年度に比べかなりポイントが増加している。生活点検週間の取り組みが活きていると予想される。

(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか (R7) 96.4←89.8←86.4←89.5

➡教員一人一人の人権意識の高さが成果につながる要因の一つだと予想される。

(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか (R7) 69.8←55.7←60.2←63.2

➡肯定的意見が年々増加している。カウンセリングマインドを持って児童と関わっている事が予想される。

(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか (本校 R7 97.6)

➡こちらの項目については、例年府平均より高い水準を維持できている。100パーセントを目指して、今後も人権教育を推進していきたい。

学校生活における人(友人・教員)との関りに関する質問項目では、肯定的な意見をする児童の割合が府平均を上回る or 近い結果が多数を占めていました。

「学習面において顕著に課題が見られる項目について（予想される課題の要因）」

(22) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）【26冊以上】(R7 本校 43.3)

(19) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【2時間以上】(本校 R7 9.6)

➡半数近くの児童(44%)が学校が休みの日に学習をしていない。家庭の蔵書数 26 冊以上あると答えた児童数は府平均を大きく下回る。教育に対する意識・関心が低い家庭の割合が多いのではないかと予想される。

新(44) 国語の勉強は得意ですか(本校R7 53)

新(52) 算数の勉強は得意ですか(本校 R7 53)

➡(22)(19)との関連も予想される

(53) 算数の勉強は好きですか(本校 R7 48.2)

新(64) 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか(本校 R7 25.3)

➡(52)の苦手意識が先行して、難しい・できないというイメージにつながっていることも予想される。

(29-4) あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を

作成することができると思いますか(本校 R7 60.3)

➡ICT 機器を用いた授業は行っているが、成果物をプレゼンテーションにして発表する取り組みが限られている事でできると思う児童の割合が府平均を下回っていると予想される。

④ 「生活面において顕著に課題が見られる項目について（予想される課題の要因）」

(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか(本校 R7 86.8)

(12) 学校に行くのは楽しいと思いますか (本校 R7 79.5)

➡児童を取り巻く環境が大きく変化している昨今、ストレスを感じる場面が多くなっているのではないかと予想される。

人権教育を中心に今後も日頃の声かけ等教員からのアプローチを意識していく必要がある。

本年度の学力学習状況調査の分析についてお知らせいたしました。見える課題については学校とご家庭と力を合わせて改善していく必要があります。特に学習面に関しては児童質問紙からもわかるように家庭学習の時間が全国に比べて非常に低い状況になっています。学習は机に向かうことも大切ですが、日常から保護者の方と会話することも大事な学習です。（表現力の向上が期待できます）今後ともご協力をよろしくお願いいたします。